

ご挨拶

東京矯正歯科学会

会長 中村 芳樹

秋も深まり、紅葉が美しい季節となつてまいりました。今年も恒例の東京矯正歯科学会秋季セミナーを開催することとなりました。

今回のテーマは「上顎犬歯による前歯部歯根吸収症例の診断と対応」です。犬歯の埋伏は会員の皆様がよく経験されていると思いますが、問題はこの埋伏犬歯が前歯、とくに側切歯の歯根と接触し、側切歯の歯根を吸収してしまうような症例です。

本セミナーではこのような問題に対しての解決策を導きたく、この方面での治療に献身的に取り組んでおられる3名の先生方をお招きしご講演いただくこととしました。

簡野瑞誠先生には埋伏犬歯による重篤な歯根吸収を起こさないという観点からの前歯部叢生の早期治療の診断と治療について詳しく解説していただきます。

外木守雄先生には埋伏歯の開窓術ならびにその牽引処置に対する保険診療に向けての技術提案書等の解説と、口腔外科サイドから見た埋伏歯の開窓に伴う診断・手術手技・牽引について詳しく解説していただきます。

嘉ノ海龍三先生には犬歯の埋伏するメカニズムについて歯小囊の膨らみ方と歯の萌出方向と歯根の成長段階との関係、また歯根吸収について歯小囊と歯根尖の位置と動揺運動との関連を解説していただきます。

埋伏歯の矯正治療は会員の皆様が日常的に関わっておられる治療ですので、今回のセミナーが皆様の明日の臨床に有意義なものとなることを確信しています。お誘い合わせのうえ多数の方々のご来場を期待しております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日本矯正歯科学会認定医の方は、当日、IDカードをお持ち下さい。セミナー参加者は、研修ポイント5点が加算されます。



1 飯田橋 ファースト

ベルサール飯田橋ファースト

〒112-0004 東京都文京区後楽2-6-1

住友不動産飯田橋ファーストタワー B1

- ・「飯田橋駅」東口徒歩5分 (JR線)
- ・「飯田橋駅」B1出口徒歩5分 (有楽町線・南北線)
- ★近隣のベルサール飯田橋駅前とお間違えないようお気をつけください。

今後のご案内

- 平成29年度春季セミナー
日時：平成29年4月13日(木) 18時～
会場：有楽町朝日ホール
- 第76回東京矯正歯科学会学術大会
日時：平成29年7月13日(木) 10時～
会場：有楽町朝日ホール

詳細は決まり次第学会ホームページに掲載いたします

東京矯正歯科学会

東京都豊島区駒込 1-43-9 (〒170-0003)

一般財団法人口腔保健協会内

TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成28年

東京矯正歯科学会 秋季セミナー

上顎犬歯による 前歯部歯根吸収症例の診断と対応

モデレーター：榎 宏太郎 学術委員長

講演者：簡野 瑞誠 先生

外木 守雄 先生

嘉ノ海龍三 先生

日時・平成28年11月17日(木曜日)
午後6時より

場所・ベルサール飯田橋ファースト

当日会費・無料 (会員、会員同伴のコデンタルスタッフ)
¥3,000 (非会員)

簡野 瑞誠 先生

1995年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1999年 東京医科歯科大学大学院修了, 博士(歯学), 医員
2002年 東京医科歯科大学大学院咬合機能矯正学分野助手
2008年 東京医科歯科大学大学院咬合機能矯正学分野講師
現在に至る



埋伏犬歯による重篤な歯根吸収を起こさないために —前歯部叢生の早期治療について考える—

永久歯交換期における悩みの種の一つとして埋伏犬歯が挙げられます。その原因として歯胚の位置異常や萌出余地の不足などがありますが、目立った不正咬合がなく、歯科医院でパントモなどのX線撮影を行う機会がない場合には、見過ごされることもしばしばあります。単純な萌出余地不足であれば、空隙を確保し、自然萌出や開窓・牽引などの処置により矯正治療を行うことができますが、中には隣在歯の歯根吸収を起こしており、複数歯の抜去にいたることもあります。このような状態をどのように予測し、いつ、どのような処置を行うべきかは、簡単な答えがある問題ではありません。

一方、目に見えない埋伏犬歯とは異なり、前歯部の叢生ならびに上顎前突や反対咬合などの不正咬合は患者にとって分かりやすいものです。近年では、歯並びやかみ合わせに対する関心の高まりとともに、学校検診においても不正咬合を指摘される機会が増えてきています。矯正歯科医としましては、骨格的な問題や機能的な問題、そして不良習癖などについて早期に対処できるものとして歓迎すべきことでありますが、側切歯の舌側転位や前歯部の軽度の叢生を早期に治療する場合には、前述の埋伏犬歯の問題について配慮することを念頭に入れる必要があるものと思われます。周知のように、Broadbentが名づけた“ugly duckling stage”は、上顎犬歯が萌出する際に側切歯歯根に近接することで、側切歯歯冠が唇側・遠心に傾斜することを表すものですが、この時期における前歯部の矯正治療は、未完成の歯根を犬歯歯胚により接近させることとなりますので、さまざまなリスクが生じることが考えられます。ほとんどの場合においてはその後正常に萌出したり、犬歯低位唇側転位となったりすることで歯根との接触が回避されますが、時には、犬歯歯胚の歯槽骨内における位置や萌出余地不足の程度、そして前歯の移動方法など、いくつかの望ましくない条件が重なることにより、重度の歯根吸収を引き起こすことがあります。

このセミナーにおきましては、いくつかの症例の供覧を通じて、埋伏犬歯による前歯の歯根吸収を回避するための診断や対処について述べ、われわれの経験を共有していただければと思います。

外木 守雄 先生

1983年 東京歯科大学卒業 歯学博士
2002年～ 米国Stanford大学医学部機能再建外科学教室
睡眠外科, 客員研究員
現在, Master fellowとして在籍
2012年 日本大学歯学部口腔外科学教室第1講座教授
2015年～ 日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野
教授
現在: 日本口腔外科学会理事, 社会保険委員長
歯科系学会社会保険委員会連合会長
外科系学会社会保険委員会連合実務委員 を務めている



開窓牽引術の適応と保険請求上の問題

本来、萌出するべき永久歯が顎骨内に埋伏していることにより隣接歯の歯根吸収や当該歯の歯根湾曲などの2次的障害を生じる場合には、埋伏歯の開窓・牽引が適応となる。多くの場合、開窓術のみでは歯の萌出は期待できず、周囲の歯などを固定源とした牽引・歯科矯正治療が不可欠である。この場合、問題となるのは、これまで開窓療法の実験点数は顎骨腫瘍摘出(J043)を準用しているが、歯科矯正治療は自費となり、現在の保険ルールによれば、混合診療となってしまふことである。この場合、選択肢は全額自費治療とするか? 開窓のみで牽引を行わないか? 諦めて抜歯するか? であり、いずれも患者の不利益は計り知れない。

この点を鑑みて、本年度の保険改定で日本口腔外科学会、日本矯正歯科学会、日本口腔科学会、日本小児口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本有病者歯科医療学会と共同で、埋伏歯の開窓・牽引に関する技術提案書を厚労省に向けて提出した。その後のヒアリングでも重点項目として直接厚労省技官とも打ち合わせする機会を得ていたが、結局、本技術の保険収載は見送りとなった。

なぜ、収載見送りとなったか? 今後、どのようにしていくべきか? 混合診療を回避するためにどのような対策が必要か? 現時点で想定される対応策について説明する。

また、埋伏歯の開窓に伴う、診断要点、手術手技、牽引に伴う口腔外科側から見た問題点なども症例提示しながら解説したい。

嘉ノ海龍三 先生

1977年 大阪歯科大学卒業
1980年 姫路市にて開業
1989年 歯学博士(大阪歯科大学, 小児歯科)取得
2002年 大阪大学大学院歯学研究科(矯正学)修了
(学位受領)
大阪歯科大学非常勤講師
滋賀医科大学非常勤講師
大阪大学招聘教員



上顎犬歯の埋伏と隣在歯の歯根吸収について

近年、上顎犬歯の埋伏は珍しいことではないと感じている臨床矯正歯科医は少なくありません。歯が大きくなったか、あごが小さくなって?、犬歯の萌出スペースがなくなっているとの指摘がなされていますが、実際に種々の報告では永久歯の個々の歯の平均値は大きくなっています。顎の大きさに関しては、調査する手段が限られるため、容易に過去と比較することはできませんが、第二大臼歯の智歯化や萌出困難な上下顎第二小臼歯などに遭遇する頻度が高くなっていることから、少なからず永久歯列全体の萌出スペースはなくなっていることが想像できます。犬歯が萌出困難になった場合、萌出遅延で高位の頬側歯肉を破って萌出していわゆる「八重歯」状態を呈するものや、口蓋側に萌出してくる場合もあり、その状態はさまざまです。

犬歯を含め歯の萌出に関して、そのメカニクスはわかっていないことが多く、乳歯と永久歯が生え変わる代生歯や歯列後方から参加してくる加生歯についても、生え変わるタイミングや歯根の成長とのバランスは絶妙に保たれています。

加生歯である第三大臼歯は埋伏することは頻繁にありますが、最近では第二大臼歯も埋伏していることがあり、なぜこのようになってしまうのかは明確にはわかっていないのが現状です。確かに萌出スペースが不足している場合や歯が大きい場合に歯が埋伏しやすいことは容易に理解できるのですが、稀にスペースがあっても埋伏してしまう場合や、第二小臼歯のように萌出方向が完全に口蓋側に水平になってしまう場合や、上顎中切歯のように逆生になっている場合もあり、そのメカニクスを完全に解明することは非常に困難です。しかしながら、そのようなになっている場合の歯は、特徴的にパノラマX線上で歯小囊(フォリクル)が膨らんで見えることが多いので、その歯小囊の膨らみ方と歯の萌出方向と歯根の成長の段階(Nolla)との関係に着目しました。また、埋伏歯の臨床上、重要な問題である隣在歯の歯根吸収についても歯小囊と歯根尖の位置と歯の動揺運動(ジグリング)とが関連している可能性が示唆されるようなCB-CT画像が存在しました。

そこで今回、犬歯が埋伏するメカニズムについて歯列矯正目的で撮影したCB-CTの画像を使って、詳細に検討したので報告致します。